

『藤原京右京九条二坊・九条三坊、瀬田遺跡発掘調査報告』の刊行

都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)では、昨年度末に藤原京右京九条二坊・三坊および瀬田遺跡の発掘調査報告書を刊行しました。

この報告書では、2015年度から2016年度にかけて実施した、ポリテクセンター奈良(独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構奈良支部 奈良職業能力開発促進センター)の本館建て替えにともなう発掘調査の成果を150頁にわたりまとめています。その成果の第一は、西二坊大路や坪内道路、整然と配された建物群をはじめとする藤原京期の遺構の発見です。

成果の第二は、弥生時代後期末の全長約26mの大型円形周溝墓S Z4500の発見です。残念ながら、墳丘や墓壙は削平のため残っていませんでしたが、墳丘をめぐる周溝のかたちから、それが「前方後円形」であるとわかり、調査当初から大きな注目を浴びました。また、周溝出土の弥生土器はこの墳墓の年代を考えるうえでもきわめて重要です。この報告書ではおよそ230点もの弥生土器を載せることができました。製図におよそ1年を要した出土状況図も、附図として巻末に綴じてあります。

第三の成果は、縄文時代後期末の土器群の発見です。滋賀里1式の土器は西日本でもまとまった資料の類例が少なく、このたびその貴重な一例をくわえることができました。

この報告書に掲げた資料が、さまざまな方面で活用されることを願ってやみません。

(都城発掘調査部 森川 実)



『藤原京右京九条二坊・九条三坊、瀬田遺跡発掘調査報告』

酒船石遺跡の亀形石槽・船形石槽(復元品)を新たに公開

飛鳥資料館の庭園の石造物に、酒船石遺跡の亀形石槽・船形石槽が加わりました。

亀形石槽・船形石槽は花崗岩を用いた実物大の精巧な複製です。周囲の石敷と湧水施設部分は雰囲気を再現しました。亀形石槽は、製作した石工の左野勝司氏から奈文研に寄贈されたものです。左野氏へは奈文研から感謝状が授与されました。

今回復元した石造物は、酒船石がある丘陵の北麓、谷底の湧水地点に造られていた飛鳥時代の導水施設です。周囲には大規模な石敷きの遺構が広がり、その立地や規模、構造から、天皇や国家にかかわる重要な祭祀の場だったと考えられています。しかし、史料上にはそれらしき記述はなく、亀形石槽のところで何がおこなわれたのかは謎に包まれています。

湧水施設から流れ出た水は船形石槽に溜まり、その上澄みが亀形石槽へ流下する構成になっています。亀形石槽は栓をすれば約200ℓの容量があります。亀の顔や手足はどことなくユーモラスな姿をしています。

みなさんも飛鳥資料館の庭園で古代の祭祀を想像してみませんか。 (飛鳥資料館 石橋 茂登)



酒船石遺跡 亀形石槽・船形石槽(復元品)



記者に説明する石工の左野勝司氏